

展覧会記録

2010年 稚内北星学園大学 創立10周年記念事業

「大学ミュージアム・プロジェクト ーリアルタイム web と美術ー」

小谷彰宏

●要約

この展覧会は本学の講義室や通路、食堂など学園全体を展示場とすることで大学の研究と教育の場を美術館の機能を持った少し非日常的な空間とする企画として、また、美術館の存在しない稚内の街に様々な分野のアートを紹介する目的も兼ね、日本各地の作家に協力頂き執り行われました。

まず、3名の芸術家を招聘し、それぞれの専門分野を活かしながらこの場でしかできない作品を滞りして制作頂くアート・イン・レジデンスを展示部門の柱として位置づけました。そして、版画や絵画、陶芸、立体、コミックアートなどの多様なジャンルのアーティストから作品の協力を受け学園中に実作品を展示しました。また、映像作家の作品上映や外部の展覧会の記録を上映することでより多くの作品を紹介することが可能となり、同時に本学の学生作品に加え稚内市との地域連携により市内高等学校に協力頂き美術部の作品も展示しました。

この実際の美術作品を鑑賞すると同時に情報メディア学部の特徴を生かしたインターネットやIT機器を活用した美術展として、スマートフォンを活用したWeb生中継により遠隔地で行なわれている美術展を疑似体験する企画を取り入れ、本展覧会名称を「大学ミュージアム・プロジェクト - リアルタイム web と美術 - 」としました。

本展覧会により教育の場である大学が、アートを通して地域連携の場と成ると同時にWebを活用することで地域を越えたつながりの場となる大規模なミュージアムと成りました。

●キーワード

ミュージアム

現代美術

展覧会

アート・イン・レジデンス

リアルタイム Web

Web 生中継

「大学ミュージアム・プロジェクトーリアルタイム web と美術ー」

ー展覧会記録ー

稚内北星学園大学では、2010年9月5日から9月20日まで稚内北星学園大学創立10周年記念事業の一環⁽¹⁾とし、大学全体を美術館とし本学の学生作品と多数の美術家による作品展示や映像作品の上映などを行い、また関西のギャラリー探訪として遠隔地（大阪府、京都府、兵庫県）で行われている展覧会を巡りスマートフォンを活用した Web 生中継も行ないました。そして、学生の Web 生放送による取材で、北海道のアート情報の発信も試みました。

日 程：2010年9月5日(日)～20日(月)

時 間：10:00～18:00（日曜・祝日17:00）

Web 活用による生中継の日は大学 HP にて公開

http://www.wakhok.ac.jp/tokusyu_10th.html

会 場：稚内北星学園大学キャンパス全域 / 入場無料

北海道稚内市若葉台1丁目2290-28

主 催：稚内北星学園大学

後 援：稚内市 / 稚内市教育委員会

協 力：ターナー色彩株式会社提供「小吹隆文アートのこぶゞ」（大阪） / 船坂里山芸術祭推進委員会（兵庫） / 架空通信懇談会（大阪） / 片山宏明事務所（大阪） / 株式会社イーガー（大阪） / gallerism 実行委員会（大阪） / NPO 法人アーツプロジェクト（兵庫） / 天游館（大阪） / ギャラリー H.O.T（大阪） / ギャラリー wks.（大阪） / ギャラリー白（大阪） / 天野画廊（大阪） / 0 ギャラリー eyes（大阪） / 番画廊（大阪） / ポートギャラリー T（大阪） / 2kw ギャラリー（大阪） / 信濃橋画廊（大阪） / ギャラリーすずき（京都） / アートスペース虹（京都） / ギャラリーモーニング（京都） / アートスペース東山（京都） / ギャラリーはなうさぎ（京都） / 立体ギャラリー射手座（京都） / ギャラリーマロニエ（京都） / ギャラリーギャラリー（京都） / 北海道おといねっぷ美術工芸高等学校（北海道） / 稚内高等学校美術部（北海道） / 稚内商工高等学校美術部（北海道）（順不同）

総合ディレクター：小谷彰宏（立案・企画・構成・設置・運営）

大学ミュージアム構想

この展覧会は本学の講義室や通路、食堂など学園全体を展示場とすることで大学の研究と教育の場を美術館の機能を持った少し非日常的な空間とする企画として、また、美術館の存在しない稚内の街に様々な分野のアートを紹介する目的も兼ね、日本各地の作家に協力頂き執り行われました。

まず、3名の芸術家を招聘し、それぞれの専門分野を活かしながらこの場でしかできない作品を滞在して制作頂くアート・イン・レジデンスを展示部門の柱として位置づけました。そして、版画や絵画、陶芸、立体、コミックアートなどの多様なジャンルのアーティストから作品の協力を受け学園中に実作品を展示しました。また、映像作家の作品上映や外部の展覧会の記録を上映することでより多くの作品を紹介することが可能となり、同時に本学の学生作品に加え稚内市との地域連携により市内高等学校に協力頂き美術部の作品も展示しました。

この実際の美術作品を鑑賞すると同時に情報メディア学部の特徴を生かしたインターネットや IT 機器を活用した美術展として、スマートフォンを活用した Web 生中継により遠隔地で行なわれている美術展を疑似体験する企画を取り入れ、本展覧会名称を「大学ミュージアム・プロジェクトーリ

リアルタイム web と美術 - 」とした。

本展覧会により教育の場である大学が、アートを通して地域連携の場と成ると同時に Web を活用することで地域を越えたつながりの場となる大規模なミュージアムと成りました。

学内展示場

メディアアート・インスタレーション作品展

▶小谷彰宏（稚内北星学園大学情報メディア学部講師）



作家コメント

「2000年公開 - Call Sign Exhibition - より本展では、稚内北星学園大学開学と同時代に発表した作品のコンセプトモデルになる。

オブジェとして展示されている携帯電話へ外部からアクセスすることで会場内の映像が切り替わり、観覧者がその場に存在しない他者を認識する。そして見えない他者とのつながりを意識させ自己の身体感覚を呼び覚ますための装置としてのインスタレーションである。」

（小谷彰宏）

・ 招聘作家 (アート・イン・レジデンス)

▶ 藤井達矢 (武庫川女子大学文学部准教授) 滞在制作・公開制作



本展では、「廃教室と化した、開かずに
間で何かが起きている」をテーマに藤井達
矢にブラウン管テレビを用いたインスタ
レーション制作を依頼。

藤井は、持論の核家族の問題を蜜柑を車
で引き潰すインパクトのある映像で表現し、
誰も居ない荒れ果てた教室の数十台の視聴
モニタに24時間流し続けた。

この模様は、本学の会場で直接鑑賞でき
ると同時にユーストリームでネット上に24
時間生中継され、本展覧会のコンセプトで
ある「リアルタイムWebと美術」を見事
具現化してみせた。

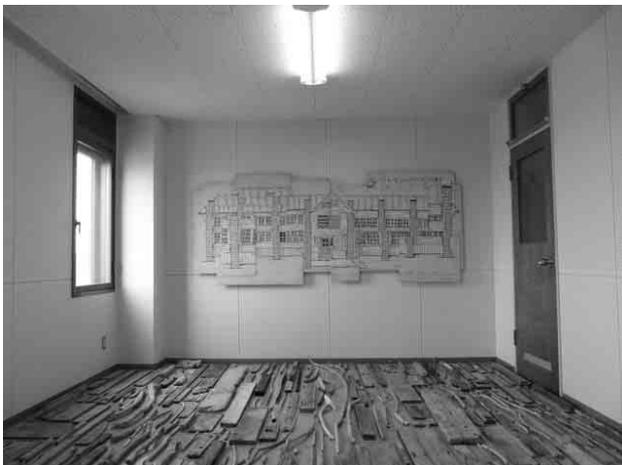


▶高木義隆（上田女子服飾専門学校講師） 滞在制作



高木義隆は、各地で記憶の中の学校を造形化する創作活動を行っている。過去に廃校となった学校の卒業者にその頃の思い出を語ってもらいその記憶の中に残る学校をビジュアル化する試みだ。今回は、稚内でしかできないプロジェクトとしてロシアのサハリンが樺太と呼ばれ日本の領土だった頃の

学校を再現した。稚内で暮らす戦乱からの引き揚げ者は、高齢で他界者も多くまた、存命者もその悲惨さ故に多くを語ろうとしなかった。高木は、少ない聞き取りの情報を埋めるべく市立図書館の協力のもと未公開資料の中からイメージを得ることで縦1.5m横3mほどの壁画を完成させた。その手前に敷き詰められた流木は、“届きそうで届かない”稚内とサハリンの海峡を表している。



作家コメント

「私はコミュニケーションをテーマに作品を制作しています。

今回は稚内市と地理的にも歴史的にも関わりの深い樺太に存在した小学校をモチーフにしました。絵画の前に漂流物を配した構図は、宗谷岬から樺太を眺める図を現しています。

過去の記録や記憶が人々の間で食い違いながらも、その過去を思い出したり、現在をみつめたり、未来を考える場となれば幸いです。」(高木義隆)

▶富岡 淳（フリーランス造形アニメーター）滞在制作



富岡淳は、人形アニメーションなどコマ撮り映像を得意とするフリーの造形アニメーターである。そのフィールドは、テレビ番組やコマーシャル、映画など多岐にわたる。富岡は、稚内の風景と高木義隆氏の稚内でしか作れない作品の制作過程を撮影し、自作のコマ撮りアニメーションと組み合わせることで、この地でしか表現できない実験的なアートドキュメンタリーとして見事に映像化した。

映像クリエイターの作品上映

▶片山宏明(アートディレクター&グラフィックデザイナー・映像作家)

タイトル:「HOLE」

ストーリー:

「幾人もの愛した女を次々と殺めてきた殺人鬼は、やがて復讐する者の手に落ちる。復讐者による非情なる銃弾が放たれた時、殺人鬼の時間を迎える旅が始まった。それは銃弾によって倒れた殺人鬼の最期の脳の手揺きを記録した物語である。脳の中で弾丸は記憶を一つ一つ破壊し突き進み、脳の表面では崩れた細胞の一つ一つが力なく体液を吐き出す。絶命半秒の物語。」

協力:片山宏明事務所 / 株式会社イーガー

<http://www.eager.co.jp/original.html>

▶田口行弘(美術家/ドイツ・ベルリン在住)映像作品上映

西宮船坂ビエンナーレ2010『つながる』連携企画



コンテンポラリー・アートフェア

各地で活躍しているプロのアーティストによる現代絵画、現代陶芸、現代版画、コミックアートなどの作品展示を行ないました。

アートフェアとしたのは、将来的にアートツーリズムとして観光と結びつけた美術マーケットの創造を意図した構想でのネーミングです。

・出品作家

▶秋永邦洋（現代陶芸）兵庫県在住



▶谷森ゆかり（現代美術）兵庫県在住

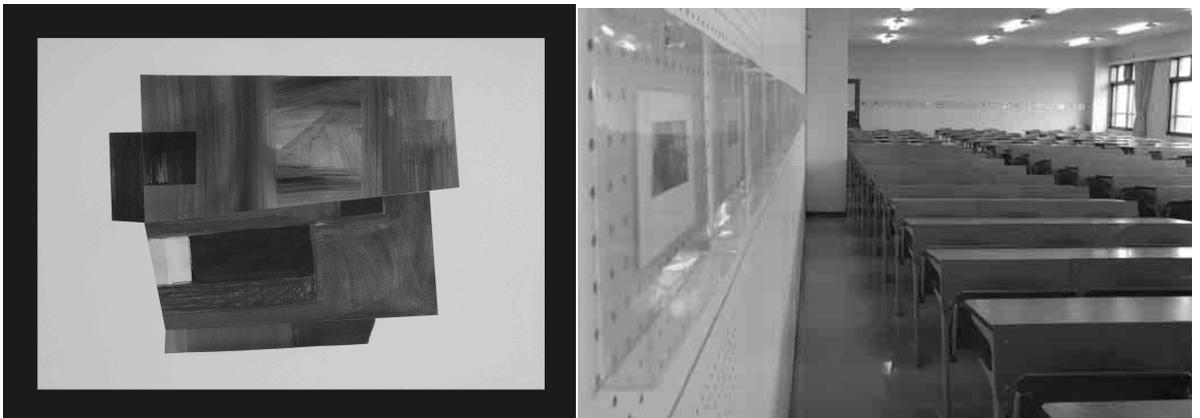
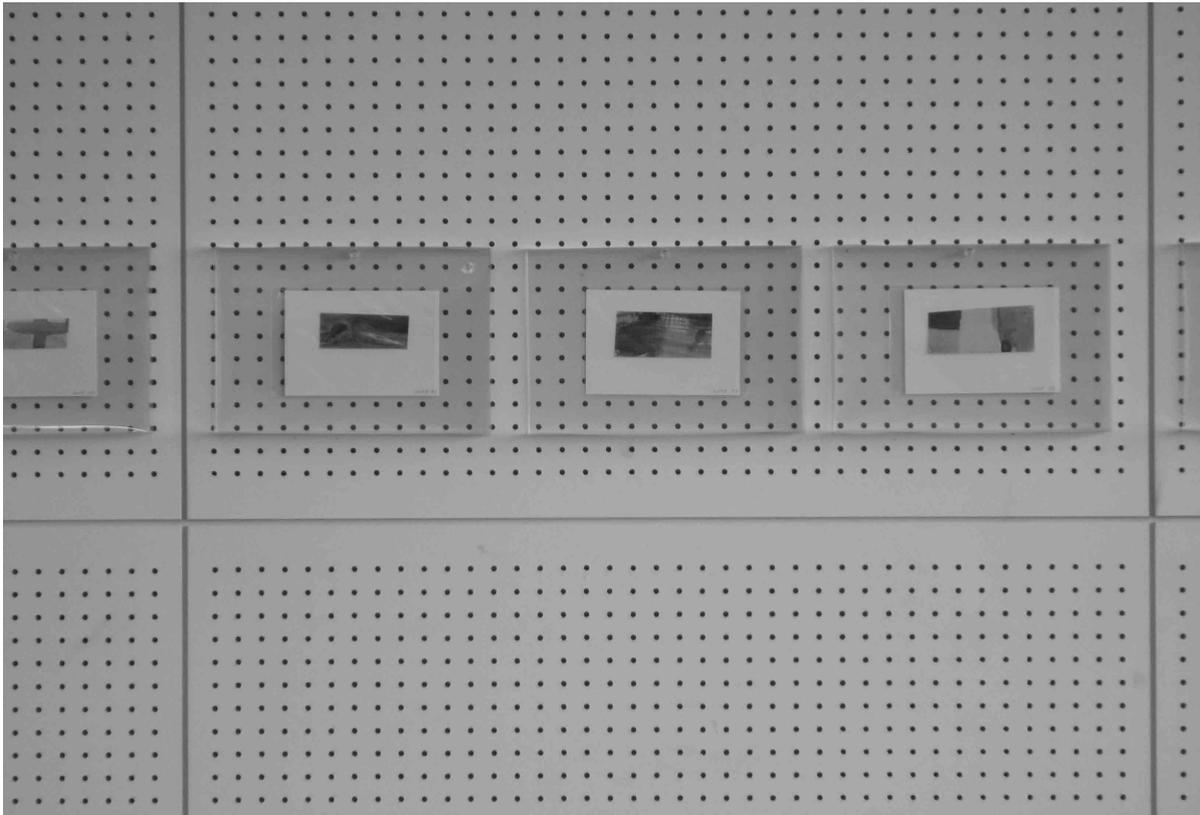


作家コメント

「生きる事とつくる事がわたしにとってとても重要です。彫刻家になりたいと志ざしてやっと八年歩いてきました。

制作のテーマは、母なる大地です。大地の子宮の中は、曲がりくねっていつも迷いくじけそうになります。しかし、その道で色々な大事な人達に出会うことができ、応援してもらっていると感じています。そのことが制作の原動力へと変わっています。私なりに信じて進んで行こうと感じています。」(谷森ゆかり)

▶右澤康之(絵画) 東京都在住



作家コメント

「私は主にアクリルや油彩を使用し抽象表現主義傾向の絵画制作をしています。キャンパスの仕事の他に、ドローイングやコラージュ、水彩の仕事も並行して進めています。

今回の展示作品は、私の水彩の仕事のなかでも、日記のようにイメージをかきとめたメモ帳のような性質をもっています。といっても毎日描いているわけではありませんが、もう十年以上続けています。サイズもアプローチも毎年少しずつ変化しています。制作点数もかなりの数になっていて、小品ですが私の仕事のなかでも重要な位置を占めています。」(右澤康之)

▶さらえ きみ(コミックイラストレーション) 大阪府在住



▶Yuka(造形) 北海道在住



▶高本英里（版画）大阪府在住



作家コメント

「何かの内在于て、外にいる私。

目に映るものもそうでないものも留まることはなく、そこに私は存在しています。

計り知れない内と外。

その境界に立ち、間で揺れ動き、内から外、外から内へ響き、溢れ、染みこみ、ぶつかることで「私」という輪郭を確かめることができるのだと思います。

私はいつでも内と外によく耳を傾け、境での呼吸を大切にしながら、反映される自分自身、またそれとは離れたものを見たいという気持ちで制作を続けています。」

（高本英里）

▶山内 亮（絵画）大阪府在住



作家コメント

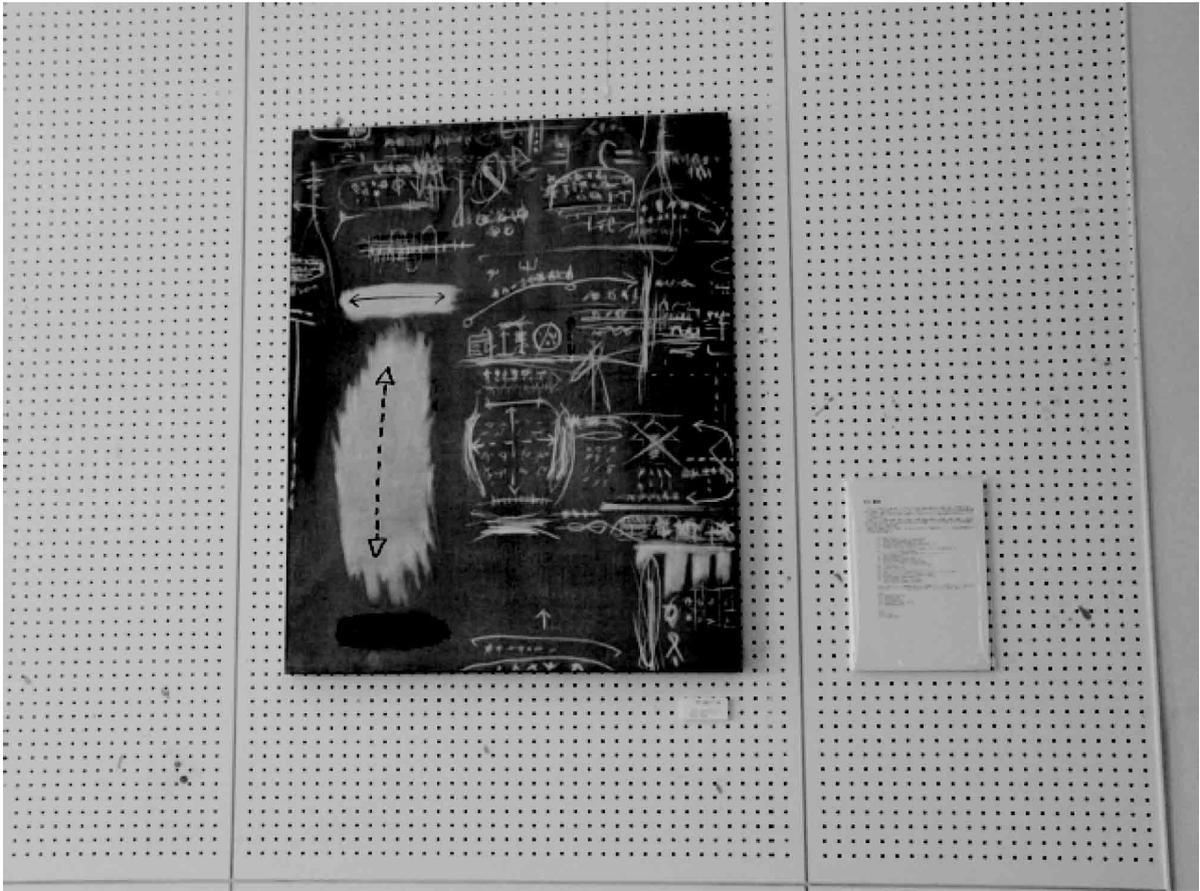
「物語を突き詰めて行くと、思いに行き着き、その思いは表情となって表れる。

最近は、色そのものの美しさに魅力を感じている。より感覚的に、直感で色を重ねてくことで、思いがけない表情を生む瞬間がある。

意識と無意識。知らず知らず、自分の思いが人物の表情と重なっている。絵画は動かないし音もないが、だからこそ想像出来る楽しみがある。

表情から何かを感じられる絵画を描きたい。（山内 亮）

▶吉田廣喜（絵画） 兵庫県在住



作家コメント

「私にとって作品とは、線を描くことである。幼い頃、地道や舗装された道路一面に、釘や蝸石で無心に描いた感触が、制作の原点となっている。また、1995年1月17日（火）午前5時46分の阪神淡路を襲った未曾有の大震災で作者の目に映った情景は、大自然のエネルギーが都市空間や人工物を否定したかのような有様であった。

見慣れたビルや建物の倒壊。幾重にも堆積した地層の断面や道路に走る亀裂。余震と瓦礫の中で無数に落下する雨。青空の中、遠くに見えた山の流れるような景観。ロウソクの火に映し出された死体安置所。虫たちが飛び交う不思議な空路。

画面の中の想像は生まれては消え、また消えては生まれる。和紙自身にとって、その後の無防備なジグザグ作業の創造の軌跡です。」(吉田廣喜)

森口ゆたか（美術家/NPO 法人アーツプロジェクト代表）作品集 DVD 上映



兵庫県立近代美術館にて2007年から行なわれている百花繚乱展の記録を上映（2007-2009）

架空通信 百花繚乱展 2010 (<http://art-kakuu.org/>)

会期：2010. 10/22（金）～10/31（日）

会場：兵庫県立美術館ギャラリー棟3F



吾妻 琳（アーティスト/天游館代表）天游館ダンスパフォーマンス「幽霊スポット」記録映像を上映

<http://www007.upp.so-net.ne.jp/tenyukan/>



作家コメント

「舞踏によってつちかわれ、都会で生活している身体からダンスを。身体と日常の関係を詩的に表現する。近年はソロダンスに重点を置き活動中。」(吾妻 琳)

稚内北星学園大学の学生及び卒業生の作品を展示



稚内高等学校美術部の絵画を展示



稚内商工高等学校美術部の絵画を展示



映画チラシコレクション展（1980年代を中心に）/所蔵：小谷彰宏



リアルタイム Web

下記の各地で行なわれた展覧会などのライブ中継を大学内ブースで放送し、その配信アドレスを大学のHPにもリンクさせることでインターネットを通じ世界中に公開しました。また、大学内に展示した作品も同時に Web で鑑賞が可能としました。

<http://www.ustream.tv/channel/wakhok-10th/> 他、(ユーストリームを活用)

関西のギャラリー探訪

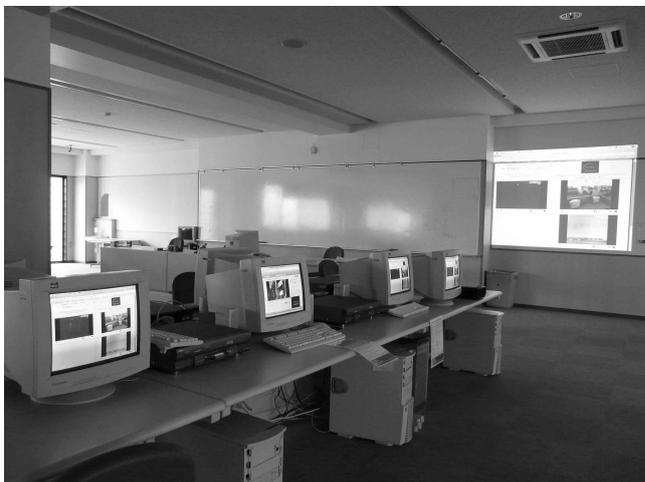
遠隔地のギャラリーで行われている展覧会を、スマートフォンのビデオ生放送機能でアクティブな情報発信を行ない、視聴者がリアルタイムにギャラリー巡りを体感できる Web 生中継の公開を美術ライターの小吹氏によるライブレポートの形式で行ないました。

- 中継先：大阪の各ギャラリー
- 日 時：2010年9月10日(金)
- 中継先：京都の各ギャラリー
- 日 時：2010年9月12日(日)
- ▶ ナビゲーター：小吹隆文(美術ライター)

「大阪府生まれ。奈良県育ち。情報誌編集部員として約15年間勤務し、平成17年よりフリーの美術ライターとして活動。関西を中心に、やたらと美術展を見て回ることで知られている。」

(ターナー色彩株式会社提供小吹隆文アートのこぶめより引用) <http://blog.livedoor.jp/artkobujime>

●ギャラリー探訪協力ギャラリー「大阪」



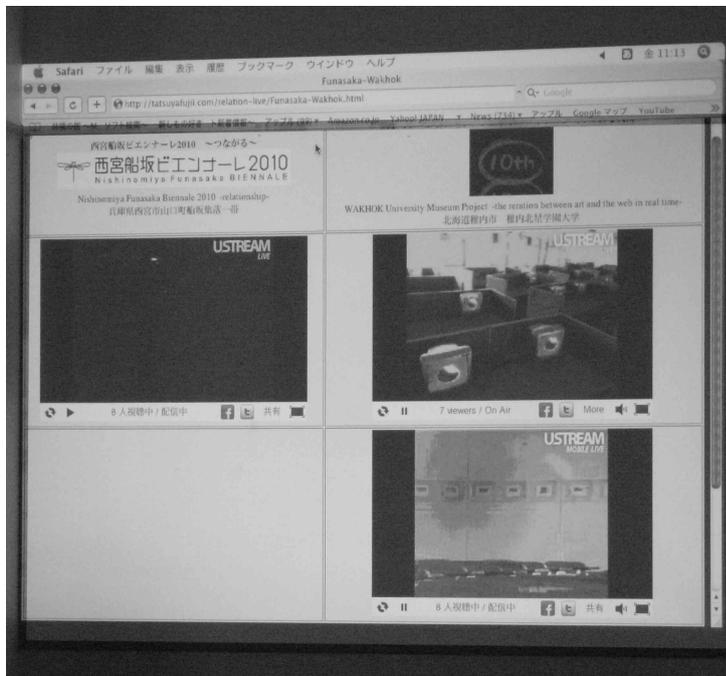
ギャラリー H.O.T / ギャラリー wks. / ギャラリー白 / 天野画廊 / 0 ギャラリー eyes / 番画廊 / ポートギャラリー T / 2kw ギャラリー / 信濃橋画廊

●ギャラリー探訪協力ギャラリー「京都」
ギャラリーすずき / アートスペース虹 / ギャラリーモーニング / アートスペース東山 / ギャラリーはねうさぎ / 立体ギャラリー射手座 / ギャラリーマロニエ / ギャラリーギャラリー

兵庫県西宮市の里山で開かれる「西宮船坂ビエンナーレ2010」では、9月から会場地域の廃校にてドイツより招待された美術家が滞在制作を行っており、その様子を Web で生中継しました。

●西宮船坂ビエンナーレ滞在制作中継

日時：2010年9月13日(月)～



・西宮船坂ビエンナーレ2010『つながる』
<http://funasaka-art.com/>
会期：2010. 10/10(日)～11/14(日)
水曜定休(ただし11/3 祝日は開場)・入場無料
会場：兵庫県西宮市山口町船坂 集落内各所
主催：船坂里山芸術祭推進委員会
助成：文化・芸術による福武地域振興財団、西宮市
推進委員長：松本義博(善照寺住職)
協力：西宮市大谷記念美術館
連携協力：有馬食の祭典、有馬温泉路地裏アート(有馬温泉観光協会)、六甲ミーツ・アート「芸術散歩2010」(阪神総合レジャー株式会社)、宝塚映画祭(宝塚映画祭実行委員会)、他
総合ディレクター：藤井達矢
舞台公演ディレクター：北夙川不可止

大阪府立現代美術センターで開かれる「ギャラリズム展2010」と連携し、相互に Web 中継にリンクしました。

・ギャラリズム展2010

ギャラリズム展は、京阪神で現代美術の現場にかかわる13の画廊によって組織されています。

会期：2010 9/13～ 9/25

会場：大阪府立現代美術センター

<http://www.sky.sannet.ne.jp/works/gism10/gallerism10.html>

音威子府美術工芸高校への取材生放送

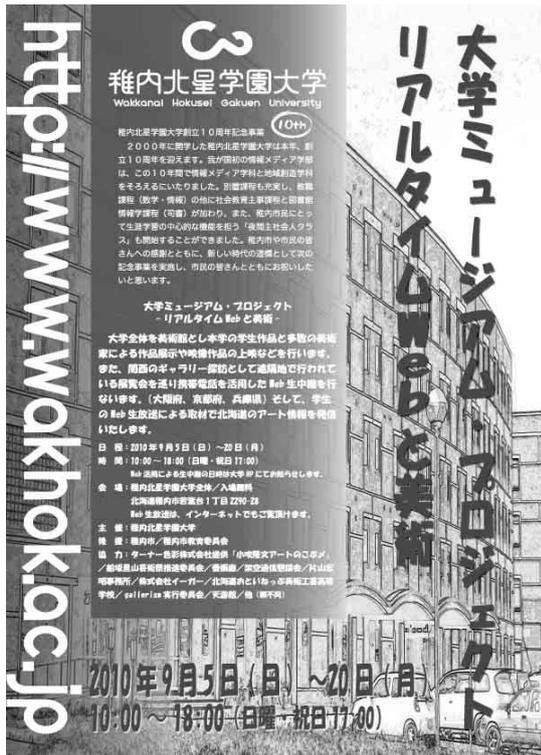
未来の芸術家を多く輩出するインキュベーターとして有名な北海道おといねっぴ美術工芸高校の校舎内は常に生徒や卒業生の作品展示場となっています。この日常的に美術館となっている高等学校へ本学の学生が携帯電話を使った Web 生放送の形式で取材を行ないました。(展示作品の紹介など)

●おといねっぴ美術工芸高等学校取材

リポーター：稚内北星学園大学学生

日時：2010年9月9日(木) 13:00～

取材先：北海道おといねっぴ美術工芸高等学校



この件に関するお問い合わせ

稚内北星学園大学

情報メディア学部

地域創造学科 准教授

総合ディレクター：小谷彰宏（立案・企画・構成・設置・運営）

097-0013 北海道稚内市若葉台1-2290-28

TEL 0162-32-7511

FAX 0162-32-7500

●註

(1) 稚内北星学園大学 創立10周年記念事業一覧

- 大学ミュージアム・プロジェクト -リアルタイム web と美術- / 日程：2010年9月5日(日)~20日(月) / 会場：稚内北星学園大学キャンパス全域 / 主催：稚内北星学園大学
- 稚内北星学園大学 創立10周年記念式典 / 日時：2010年9月11日(土) / 会場：稚内北星学園大学浜森辰雄記念講堂 / 主催：稚内北星学園大学
- 豊島雄一バリトンコンサート(伴奏 金谷ゆみえ) / 日時：2010年9月12日(日) / 会場：稚内北星学園大学浜森辰雄記念講堂 / 主催：稚内北星学園大学
- まなびふれあいフェスタ in わっかない 文字と色彩のハーモニー 小谷白羊先生ワークショップ ~夢文字体験教室~ / 日時：2010年9月16日(木) / 会場：稚内総合文化センター美術室 / 主催：稚内北星学園大学・稚内市教育委員会
- 大学ミュージアム・プロジェクト in 稚内中央アーケード街 / 日時：2010年10月18日(月)~11月5日(金) / 会場：稚内中央アーケード街(旧まちづくり稚内事務所) / 主催：稚内北星学園大学 / 協力：稚内中央商店街振興組合
- 小谷白羊『夢文字』書作品展1 / 日程：2010年10月18日(月)~11月5日(金) / 会場：稚内中央アーケード街 / 主催：稚内北星学園大学 / 協力：稚内中央商店街振興組合
- 小谷白羊『夢文字』書作品展2 / 日程：2010年10月19日(火)~11月6日(土) / 会場：稚内市立図書館 / 主催：稚内北星学園大学 / 協力：稚内市立図書館
- 稚内北星学園大学 創立10周年記念植樹 / 日時：10月23日(土) / 会場：大学校舎裏 / 主催：稚内北星学園大学 / 協力：稚内市・宗谷総合振興局・稚内森林管理署・新エネルギー研究会

本展覧会開催にご協力頂いた、関係者及び関係団体の皆様に感謝いたします。

本展覧会は、稚内北星学園大学10周年記念事業費によりおこなわれました。

● 英文タイトル

The documentation of the exhibition

The commemorative project for 10th anniversary of Wakkanai Hokusei Gakuen University:“ University Museum Project - Real Time Web and Art. ”

● 英文要約

This exhibition was held as a project for transforming the everyday space of the university into a little bit extraordinary space with the function of museum in collaboration with the artists across Japan. We also have the purpose of introducing art works to the people in Wakkanai that has no museum.

First, we invited three artists and had them stayed and produced art works with making use of their own specialty. This art in residence was the main part of the exhibition. With the support of many artists, we could put various kind of works such as prints, paintings, ceramic arts and comic arts on display everywhere in our school buildings. We could introduce more works by displaying the works of video artists and the records of other exhibitions on the screen, and with the cooperation of Wakkanai city, we exhibited the works of students of local high schools as well as our students.

In this exhibition, the internet and IT devices were used and the visitors had pseudo experiences of other exhibitions in remote places with web live broadcasting using a smartphone, so we call this exhibition “ University Museum Project - Real Time Web and Art. ”

This exhibition allowed our university to become a large-scale museum that was a place not only in community-based cooperation but beyond the areas by using web.

● Key words

museum

contemporary art

exhibition

art in residence

real time web

web live broadcasting